

第2回大和川流域委員会 議事録

開催日時：平成16年8月25日(水)15:00～17:50 場所：奈良県新公会堂 会議室1・2

委員出席数：出席15名、欠席2名(椎葉委員、前迫委員)

1. 決定事項

- (1) 議事録の様式について審議された結果、議事録案(その1)のスタイルで作成することで了承された。ただし、発言者及び一般の方が希望すれば議事内容を音声でも確認できることとされた。
- (2) 議事概要案については、様式は案のとおりとし、一週間以内に委員全員に議事概要を送付し、内容の確認をとった上で公開を行う。
- (3) 今後の流域委員会のスケジュールについて審議され、スケジュール案が了承された。
- (4) 委員へのアンケート結果による視察ポイントを盛り込んだ河川管理者からの視察提案ルートで了承された。現地視察会は9月28日で了承された。また、水質が特に悪いポイントを視察するべきと委員から提案があった。
- (5) 一般傍聴者から、第1回流域委員会における一般傍聴者からの意見内容について再度確認をして欲しいとの意見があり、庶務で対応することになった。

2. 議事経緯

(1) 第1回大和川流域委員会審議報告

第1回大和川流域委員会議事概要案について報告した。

(2) 流域委員会議事録及び議事概要の様式について

主な意見は以下のとおり。

(a) 議事録について

他の流域委員会では(その1)と(その2)の両方を作成しているところが多い。淀川では3年間で約500回開かれているが、委員会ごとに議事録をまとめたのか。大和川流域委員会の開催回数にもよるが、速記録的なものとまとめたものの2つの議事録を作成する方がよいのではないか。

(その2)の場合、委員会の間隔によっていろいろな制約が出てくるが、淀川の場合はどうなっているのか。

淀川流域委員会の回数は、部会等も入れると月に1回以上は行われている。(その2)の議事録の作成には時間を要しており、次回の会議までに間に合っていないため、前回の会議内容は議事骨子で確認をしている。テープ起こしの議事録は委員の方々が確認できるように作成し、ホームページ上で公表している。

淀川流域委員会ではテープ起こしの議事録をチェックした議事録確定版があるので、発言内容、全体の流れを非常にしっかりとつかむことが出来る。部会等の内容を委員全体がよく知っておくことが非常に大事なため、手間はかかるが議事録を(その2)の考え方で作成したらどうか。また、議事録が間に合わなければ、他に速報的に審議の流れを明らかにする簡単な資料を作成することで、審議内容がはっきりするのではないか。

淀川と大和川が抱えている問題や人口規模が違うため、大和川のやり方でやればよいのではないか。文字にして残さなくても、映像やテープで残すことでもよいのではないか。

議事録案(その1)で十分だと思う。議事録では全体の流れを整理しておくことが大事で

ある。議論の流れ、あるいは趣旨が的確に整理されていれば議事録として十分である。議事録案（その２）のスタイルだと、前回の議事録の積み残しが増え、議事録が議事録にならないのではないのか。少なくとも音声は全て記録されており、もし何か問題になることがあれば、音声で確認をすればよい。時間の制約から（その１）でよいのではないか。議事録を確認したい人が会議のテープを借りて聞くことが出来る保証があれば、活字の詳細で残す必要はない。

(b) 議事概要について

少し短くまとめて、早い時期に委員全員に送付し、委員全員のチェック後に公開したかどうか。出張等で留守の場合は、転送する等の手段をとり、１週間以内に返事を出すこととしたらどうか。

１週間以内に議事概要案が送付されるため、転送等のルートを確保して、庶務に返信する。

(３) 流域委員会のスケジュールについて

主な意見は以下のとおり。

緊急に委員会にかけなければならない案件があるか教えて欲しい。もしなければこのスピードでよいのではないか。

災害が発生した場合などでは若干違ってくるが、スケジュール(案)に示されたペースで十分と考えている。

今年度は２ヶ月に１回ぐらいのペースを想定したスケジュールで進める。

(４) 大和川の現状説明「特徴・歴史」

河川管理者から現状説明が行われた。

(５) 委員からの情報提供

(a) 荻野委員：「大和川の付け替えの歴史について」

(b) 仲川委員：「地域の特徴と歴史について」

(６) 大和川の「特徴・歴史」について意見交換及び補足説明

主な意見及び補足説明は以下のとおり。

大和川は日本の原点のような川であるから、大和川の河川整備計画では歴史的な特徴が感じられる川づくりのあり方を見出すことが課題である。

中甚兵衛が大和川付け替えの嘆願のために江戸へ行ったのかどうかは、かならずしも明らかでない。

付け替え工事により新田が開発され、幕府に新田開発権利金が入った。また、新田開発は金がかかるので開発は大商人や、百姓請けで有志の合同でやることもあった。

中甚兵衛の銅像は、中甚兵衛生誕 350 年記念で 1989 年に建てられている。

250 年記念碑の詳細な内容については、次回の黒田委員の情報提供でお願いしたい。

裴世清^{はいせいせい}が大和川をさかのぼり海柘榴市^{うづぼいぢ}へ上陸したのかどうか、亀の瀬があるため古代でも船で直接三輪山のふもとまで上がることが出来たのかどうかは明らかでない。また、織豊期に片桐且元が奉行になり亀の瀬の河床を爆破した結果、今の姿になっている。当時、亀の瀬の川底はもっと高かったので大和へ直接行くことが出来なかったと思われる。

1716 年に破堤したとあるが、付け替え後 300 年間の新大和川の破堤・洪水の歴史・土木工事の対応等についての情報、また、土砂移動（河口の堆積）・河床変動の状況を教えて欲しい。

大和川流域の資産分布を見ると、密度が非常に高くなっている。現在の大和川のバックグ

ラウンドとして、産業構成や生産額を教えて欲しい。また、農業社会から工業社会への変遷の裏付け資料を提供して欲しい。

歴史の事実を確認することも必要だが、河川整備計画における歴史の位置づけを議論すべきである。河川整備計画の中で治水・利水あるいは環境にのみ議論の重点が移行する傾向と危惧を察したが、歴史の専門委員として参加しているものの発言に十分な時間が欲しい。治水・利水・歴史について箱物ではなくて現地で体験できる大和川流域全体のサイトミュージアムを提案したい。この提案を流域委員会で真正面から受け止めて欲しい。

大阪府の「石川あすかプラン」の自然ゾーンの中に「ミニ石川」の小川をつくろうという住民運動がある。川も世界文化遺産になってもいいのではないか。川を復活するという形で「都市空間における川のあり方」について、今後のテーマとして考えていくべきである。

(7) 現地視察会について

主な意見は以下のとおり。

風格のある歴史的な実績のある川であるにもかかわらず、水質ワーストワンであることとのギャップが大きい。ワーストワン返上の取り組みが見える視点を入れて欲しい。

現地視察で浄化施設等について説明したい。

汚濁物質の流入状況を見るために、支川の汚れがひどい箇所を見ておくべきではないか。

提案箇所では西除川等の合流地点付近も通るので案内したい。

3. その他

庶務より、現地視察会の出欠及び予備日の調整、11月に開催予定の第3回流域委員会の日程を後日調整することを説明した。

一般傍聴者からの意見は以下のとおり。

第1回流域委員会における一般傍聴者の意見内容について再度確認をして欲しい。また、一般の方もテープを随時間くことが出来るようになりますか。(一般傍聴者 高岡健二)

庶務が再度第1回流域委員会における一般傍聴者の意見内容の確認をとり、議事録を確定する。テープは必要があると認められる場合は公開することができるものとする。

以上